

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

県内の相談支援センターにおける「相談記入シート」等の活用の実態に関する検討

研究分担者 塚本 憲史 群馬大学医学部附属病院 腫瘍センター（診療教授）
研究協力者 角田 明美 群馬大学医学部附属病院 緩和ケアセンター（看護師長・がん看護専門看護師）
研究協力者 渡辺 恵 群馬大学医学部附属病院 がん相談支援センター（がん看護専門看護師）

研究要旨

群馬県内のがん相談支援の現状やニーズを把握し、相談支援研修の企画および相談支援体制の整備に役立て、質の高い相談支援を提供するために、アンケート調査を行った。相談件数のカウント方法は施設間で異なり、相談支援が難しいさまざまな相談内容に、複数の業務を抱えながら対応していた。部会の活動内容を把握していない実務者も多く、PDCAサイクルのあり方、研修企画内容も含め、実務者による議論の場が必要である。

A. 研究目的

群馬県内のがん相談支援の現状やニーズについて把握し、相談支援研修の企画および相談支援体制の整備に役立て、質の高い相談支援を提供する。

B. 研究方法

本県情報提供・相談支援部会に所属する17病院のがん相談実務者に、2020年5月にがん相談件数のカウント方法、PDCAサイクル、活動形態、研修受講状況、相談支援が難しい相談内容等についてアンケートを配布、回収後その内容を分析した。

（倫理面への配慮）

なし

C. 研究結果

- 1) 県内全17施設、121名中107名から回答を得た。
- 2) 相談件数のカウント方法は、施設間でばらつきがあり、PDCAサイクルの必要性は感じているものの、具体的な行動につながっていなかった。
- 3) 担当者の活動形態は、退院支援、調整業務と兼任で行っている施設が圧倒的に多かった。
- 4) 担当者的がん相談経験年数の平均は7年、基礎研修1・2受講者66%、基礎研修3受講者46%、その他11%で、月平均のがん相談対応件数は0～9件が多かった。
- 5) 相談支援で難しいと感じる相談内容は40以上あり、就労、ACP、患者・家族の意思決定、家庭内・経済的な問題、医師との連携など多岐にわたっており、これらをテーマとした研修を希望する声が多かった。
- 6) 本県の情報提供・相談支援部会の会議に参加していない者75名のうち、活動内容を知らない者24名、部会の存在を知らない者15名が存在した。

D. 考察

- 1) 相談件数のカウント方法は施設間で異なり、相談件数の単純な比較は、活動性の評価には不適である。カウント方法の統一化を望む声も多かったが、複数の業務を担っている現状では難しいと思われた。
- 2) 対応が難しいと感じる相談内容は40以上あり、いろいろな問題を抱えながら相談業務を行っていることがわかった。これらをテーマとした研修を希望する声も多く、今後の研修企画に活かしていきたい。
- 3) がん相談実務者の中に、本県情報提供・相談支援部会の活動内容が必ずしも伝わっておらず、PDCAサイクルのあり方も含め、実務者による議論の場が必要である。

E. 結論

さまざまな問題を抱えながらがん相談に応じている実態が明らかとなった。研修企画、PDCAサイクルへの実務者の参加が必要である。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

群馬大学医学部附属病院の紹介

- 群馬県前橋市に位置する、病床数731床の急性期病院。
がんの集学的治療や重粒子線医学センターによる先進医療を行っている。
- 2006年10月 群馬県がん診療連携拠点病院に認可
 - 2008年4月 患者支援センター内にがん相談支援センター設置
 - 2015年4月 群馬県がん診療連携拠点病院取り消し
 - 2015年7月 特定機能病院取り消し
 - 2019年4月 特定機能病院再承認
 - 2019年7月 群馬県がん診療連携拠点病院再承認



「がん患者の個々のニーズに応じた質の高い相談支援の提供に資する研究」

第2回相談内容収集SG班会議

群馬大学医学部附属病院
角田明美、渡辺恵、塚本憲史



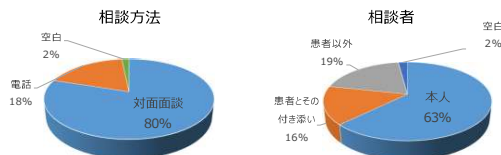
令和2年11月9日(月)

当院の相談件数について

□2019年度の実績

のべ件数	院内患者	院外患者
1538件	1336件	202件

□相談方法と相談者の内訳 (n=1538)



当院の相談員について

□がん相談支援センター

- 専従1名(がん看護専門看護師)、認定がん専門相談員 専任1名(MSW)
- 相談員基礎研修(3)修了者：8名(看護師4名、MSW4名)兼務
- 相談員基礎研修(1)(2)修了者：7名(看護師7名)兼務
- 相談員指導者研修2名修了
- 上記相談員が相談記録票の記載が可能

当院の相談記録形式 (2008年～2019年)

- がん相談支援センターの「がん相談記録票」を電子カルテ内に入れ使用
 - ・院内患者(IDあり)：電子カルテの相談記録票に記載
 - ・院外患者(IDなし)：手書きの記録用紙に記載する(紙ベースの記録)
 - 相談支援センター内でファイル管理
- 院内患者相談記録は、カルテに転記する/転記しないを選択
 - ・カルテの2号用紙に転記した記録は、すべての電子カルテ端末で相談員閲覧可能
 - ・カルテに転記しない記録は、閲覧可能な電子カルテ端末でのみ相談員が閲覧可能 ※記録内容によって閲覧できる電子カルテ端末が制限されている。
- 項目はチェックボックス形式

【問題点】

- ・院外患者記録(IDなし)は手書きのため時間がかかる
- ・紙媒体での保管のため、セキュリティ上の問題

当院の相談記録形式 (2019年～現在)

- がん相談支援センター「相談のための基本形式」を用いた相談記入シートを電子カルテ内に入れ活用開始

- ・相談記録と集計項目を合体したフォーマットを作成
 - ※当院の医療情報担当者が作成(作成に5カ月、内容変更時に対応可能)
- ・院内患者、院外患者ともに電子カルテに記載
 - ※院外患者用にEXCELでフォーマットを作成し記録 → 共有フォルダに保存

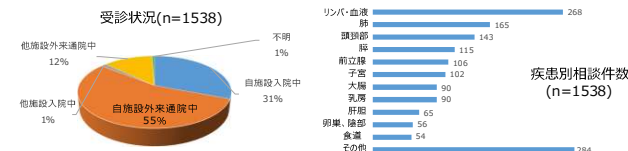
- 院内患者の相談記録は、カルテに転記する/転記しないを選択
 - ・カルテ転記の同意を確認 → 相談内容を2号用紙に記載(事情により転記しない内容あり)

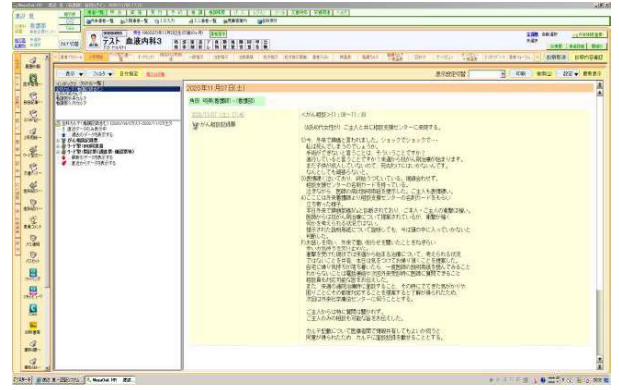
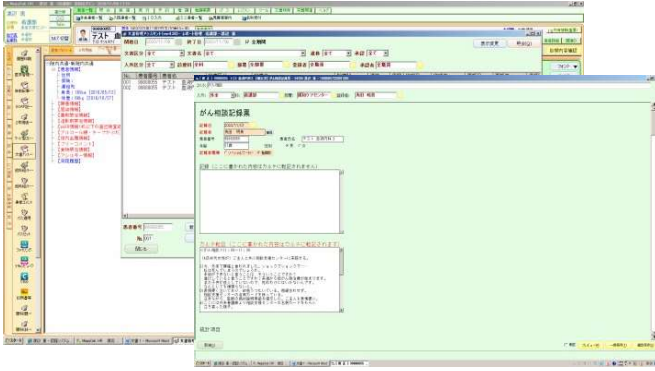
- 当院には患者カルテ閲覧システム
 - ・患者が申請すればカルテ閲覧可能なシステム
 - ・配慮情報は☑を入れ、患者が閲覧不可にする
- (例) 家族が医療者間の情報共有はOKだが、本人には閲覧してほしくない場合

当院の相談記録

- 入力時に気をつけていること
 - ・記録は事実を記載
 - ・患者が閲覧することもあるため言葉遣いに注意
 - ・他の医療職へのメッセージを記載
 - ・相談員のための記録として残すこともあり
- 情報共有シートの作成
 - ・他の医療従事者から相談支援センターに相談に行く等の連絡が入った時は、その情報を相談員間で共有できる共有シートを現在作成中

- 院内の相談
 - ・心理サポートが多い(苦痛のスクリーニング、がん分野の専門・認定看護師が兼務)
- 院外の相談
 - ・群馬県内からの相談が多い
 - ・全国からは、重粒子線治療に関することが多い
 - ・血液疾患や頭頸部癌の相談が多い傾向：医師、患者が当院に集中
 - ・情報支援が主で、相談員の知識やリソースにより対応が異なる可能性





入力システムを更新し変わったこと

- 2008年～2019年
 - 相談員各自のPCで各々が集計したものを一括集計
 - 相談員は集計のために相談件数の二重入力
 - 個人情報相談員各々のPCで管理していたため、個人情報漏えいのリスクが常にあった。
- 2019年4月以降
 - 院内患者（電子カルテ）と院外患者(Excel)用記録の相談件数を合算して算出できるシステムになった
 - 自動集計が可能
 - 相談員の二重入力が解消され、個人情報漏えいのリスクも解消

相談員の連携状況について

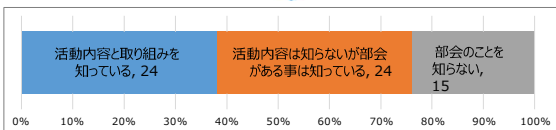
- 群馬県
 - 相談員同士の相談、連携あり
 - どの施設がどの情報に強いのか、特徴を把握しておくことも必要
 - がんゲノム・AYA世代・遺伝性腫瘍・希少がんなど特殊性のある事項についての相談、「ちょっと教えてほしい」等の相談もあり。 → **施設を越えた連携が必要**
 - 相談員が主体的に話し合う場が必要。
 - 実務者同士が話し合う機会を今後設ける予定（**実務者の会**）
- 群馬県外
 - 各相談支援センターにKeyになる相談員があり、電話連絡などでインターパーソナルな連携はできている
 - どの病院がどの分野に強いのか、最新情報はどこに聞けば良いか情報があるとよい

群馬県の課題（1）

Q10 情報提供・相談支援部会について



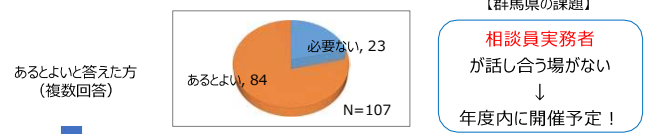
部会に参加していない方の回答 N=63（無回答12）



群馬県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会相談員アンケート集計結果より

群馬県の課題（2）

Q11 相談員の交流・連携の場について

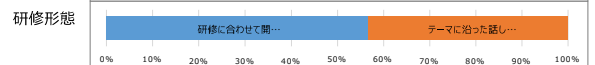


【群馬県の課題】

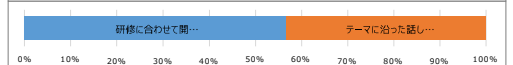
相談員実務者が話し合う場がない
↓
年度内に開催予定！

あるとよいと答えた方（複数回答）

参加しやすい時間帯



研修形態



群馬県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会相談員アンケート集計結果より

相談記録の活用について

- これまで、相談件数など数値のみで評価してきた
- 2019年度から入力システムを更新し、相談件数、相談記録内容の把握が容易になり、分析を開始した。
 - ・ 当院、疾患別の傾向を把握する
 - ・ 院内外からの相談内容、相談員の対応を把握
 - 今後の相談対応に活かす
 - ・ 相談員の強み、弱みがわかる
 - 相談員同士の連携や学び、成長に繋がる

本プロジェクトから、当院、群馬県、日本全国の相談支援センターの質向上を目指す